

事務事業名	中学校地域ふれあい道徳教育推進支援事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12268									
	☐ 実施計画事業		所属課室	教育総務課		課長名	樋口 敏明									
			所属担当	学事担当		担当者名	穂阪 町子									
基本政策	基本計画体系	V個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策	23	学校教育の充実	事業区分	01	一般	1	0	0	3	0	2	0	1	0	0	5
施策	36	「生きる力」を育む学校教育の推進		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業											
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業											
				☐ 市の制度による義務的事業	☒ その他の事業											
			☐ 義務化されている協議会等の負担金													
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 平成16 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 特色ある道徳教育の推進や、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育の取り組みを進め、本市の最重要課題の一つである。「心の教育の充実」を図る事業。 地域の人々や祖父母、保護者等に道徳の授業を公開し、道徳的実践活動の推進・事業の評価を行い、充実を図る。 事業補助金は、一校50,000円を補助する。		事業費の主な内訳 (22年度)													
			項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)							
			その他補助金		252											
							計		252							

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育に取り組んだ。
23年度活動予定	地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育に取り組む。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
生徒・学校	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を取り組み、心の教育の充実を図る。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
学校や家庭・地域が一体となった道徳教育の推進	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	
ア 申請数	件
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	
ア 生徒数	人
イ 学校数	校
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	
ア 道徳教育を実践した学級数	クラス
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	
ア 学校に対する満足度	%

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円		252	300	300	350	350	
		事業費計 (A)	千円	0	252	300	300	350	350	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	15	15	2	2	2	2		
		人件費計 (B)	千円	67	67	8	8	8	8	0	
		(A)+(B)	千円	67	319	308	308	358	358	0	
活動指標		アイウ	件	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0		
		アイウ	人	2,359.0	2,346.0	2,351.0	2,425.0	2,392.0	2,398.0		
対象指標		アイウ	校	7.0	6.0	6.0	6.0	7.0	7.0		
		アイウ	クラス	73.0	72.0	72.0	74.0	70.0	72.0		
成果指標		アイウ									
		アイ	%								
上位成果指標		アイ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成16年度から実施しており、要綱は平成18年度に制定した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	物的豊かさの中、さまざまな情報が溢れる社会において、子どもたちの本来持っている心の豊かさや道徳心が失われつつある状況下で、心の教育の重要性は高まっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	保護者や地域より、授業公開や講演会は好意的に受けとめられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	学校における道徳教育を公開することにより、学校、家庭、地域が一体となった心づくりの推進のため継続実施しているが、内容については各校でそれぞれ工夫を凝らしている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	事業を継続する中で、学校ごとに中身を工夫し、より深い内容となるよう努力している。

事務事業名	中学校地域ふれあい道徳教育推進支援事業	所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
-------	---------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育は、地域や家庭、学校が一体となった教育が展開でき、学校教育の充実に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市教委の指定研究事業のために実施しているので妥当である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 授業の中で児童と地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育は、地域との関りが希薄化している現在社会の中では子どもたちにとって地域のつながりを持つよいきっかけとなり、今後も継続して実践していくことが必要である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 学校の授業の一環で道徳教育を実施しているため、向上余地がない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 市教委の指定研究事業のために実施しているので教育推進課と協議が必要である。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市が指定した研究事業であるため休止廃止はできる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業の内容が、講師謝礼と消耗品費なので事業の仕方を工夫することにより、消耗品費等を削減することが出来る。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 補助金交付事業として行っていたが、今年度から学校予算に直接予算措置したため申請等の事務を削減することができた。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 全ての学校が行っていることなので公平である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	各校一律5万円を予算として行なう道徳教育の授業は、教科書を中心としたものでないため、工夫次第で事業費を削減できる場合もあり、一律が妥当かどうかは疑問である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑦																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					